

あなたの夢を、暮らしを応援する住宅情報紙



かふう

毎週金曜日発行
2011.7.8
Vol.301



新報リビングニュース



目次 こんな家に住みたい 沖縄市 知念さん宅 4世代8人で暮らす二世帯住宅 チャレンジ 25

- 5 情報タイアップ
沖縄ガス
- 6 どうする住宅資金
平成23年度
既存住宅流通・リフォーム推進事業
良質な中古住宅の流通を活性化
- 9 ドキュメント家づくり
外壁塗装はこうなっている⑤
- 10 園芸療法・月イチひなたぼっこ
押し花でデザインしたうちわ作り

- 11 うちなあ点描
シマの景観にふれる
耕地景観の残象 崎浜 靖
- 12 ペット
暑い夏を快適に過ごそう!
ペットの暑さ対策
- 13 ガーデン
ショーモン
国際ガーデンフェスティバル参加記⑥
園芸家の本棚

- 19 住まいQ&A
マンションの敷地利用権
宮城 匠
噂の便利アイテム
携帯ひんやりグッズ
- 20 住まいのバリアフリー研究所
「お手伝い機能」の意味
配慮が生む暮らしやすさ①
- 22 かふう週報

琉球新報

発行/琉球新報社
〒900-8525 沖縄県那覇市天久905
☎098-865-5014

企画・編集・制作/(株)正広コーポレーション
〒900-0004 沖縄県那覇市銘苅1-11-9
☎098-941-8112

購読のお申し込み **0120-39-5069**

撮影・星比久光史 「かふう」とは、「沖縄語辞典」によれば「果報。幸運(にめぐり合うこと)」とあります。「かふう」であなたの幸せを見つけてください。



こんな家に住みたい 第280回 沖縄市 知念さん宅

4世代8人で暮らす 二世帯住宅

知念さんは築40年以上の実家を、快適な二世帯住宅に建て替えました。
実家の面影をさりげなく残した住まいに、家族の新しい歴史が刻まれています。

築40年以上の実家を建て替える

沖縄市の知念さん宅は、4世代8人で暮らす二世帯住宅です。もともとこの場所には、本土復帰の5年ほど前に建てた知念さんの実家がありました。この地域で初めてアルミサッシが入った当時としてはモダンな造りで、知念さんを含む4人兄弟それぞれの個室やマチャークワー（雑貨店）も構えていたそうです。

それから月日は流れ、長男である知念さんは結婚後、実家で両親と同居し、1男1女に恵まれました。「子どもたちの成長に伴い部屋が必要になったので、庭の一角にプレハブを建て、私たち夫婦は2人でそこに18年住んでいました。その間に父は他界し、母は店を辞めて店舗だった部屋はシャッターを閉め切ったまま物置となっていました。母屋には娘と高輪の母だけが住んでいたのが防犯面でも心配でした」と言う知念さん夫妻。そこで、別の場所で暮らしていた息子さんに二



前面道路沿いには約6台分の駐車スペースを確保。庭と間に花ブロックの塀を建て、周囲と生活空間をゆるやかに区切っています。庭は、もともとあった庭木や庭石をいくつか残して旧家をしのげるようにしており、散水には敷地の角にある井戸の水を活用しているそうです

世帯住宅に建て替える話を持ちかけたそうです。建築士との出会いは突然、やってきました。ある朝、知念さんは住宅情報紙の広告に載っていた建築士のコメント文に引かれ、すぐにその設計事務所に出向いたそうです。「建て替えるなら木造住宅を」と考えていた

のですが、それにこだわるよりも家族全員の思いを形にしてもらいたい。この人なら実現してくれると直感したんです」と知念さんは振り返ります。その後、建築士と綿密な打ち合わせを重ねて、家族全員が納得できるプランが決定。念願の二世帯住宅が完成しました。



各世帯の暮らしに合った機能性を実現

1階の親世帯に暮らすのは知念さん夫妻と娘、そして母の4人です。二間続きの和室と居間を中心に、家族それぞれの部屋を配置。キッチンと裏側にストックルームがあります。コンパクトな裏動線や多目的デッキを確保しているのが、奥行きのある間取りながらも明るさや使い勝手は抜群。また建築士が考案した雨端型の玄関は、仏間や2階子世帯の階段とつなげているので、お盆や正月などの来客の多い時や子世帯との交流に、とても重宝しているそうです。「子どもたちが親世帯と自由に行き来できる上に、程よい距離感が保てるのが気に入っています」と息子夫妻は言います。



2F平面図



1F平面図



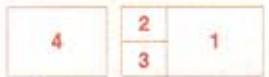
上/2階子ども室は間仕切りなし。将来必要になれば、子どもたち自身で工夫させる予定です
下/明るくて開放的な子世帯LDK

キッチンから子どもたちの様子が伺える、子育て世代にふさわしい配置です。親世帯と同様に風水を考慮して、十分な通風や採光を実現しています。また、雑貨などを飾れる特注のカウンターやダイニングテーブルを設置したキッチンや、シューズクロークの奥行きを生かして寝室へ抜けられる場所に書斎を確保するなど、こだわりを形にしています。庭には、亡きお父さまが大好きだったサガリバナをシンボルツリーとして植え直しました。「敷地の隅々まで有効活用できたことが一番うれいですが、話す知念さんですが、新しく生まれ変わった住まいの完成を一番喜んでるのは、ほかならぬ天国のお父さまかもしれません。

家族構成：母、夫婦、娘、息子夫婦、孫2人
所在地：沖縄市
設計：一般建築士事務所Simple
赤嶺しげたか
敷地面積：487.20 m²(147.38坪)
建築面積：171.46 m²(51.87坪)
延床面積：228.63 m²(69.16坪)
用途地域：未指定
構造：鉄筋コンクリート造2階建て
完成時期：2010年3月

DATA

施工業者
●建築/ (有) 仲真組
●電気/ (有) セブ/電設
●水道/ (有) 大嶺設備工業
●キッチン/ (有) CASA



1. 1番座、2番座に直接上がれる雨端型の玄関は、来客時や雨の日に大活躍。特注の踏み台は靴箱としても使えます
2. 現役で畑仕事をこなすお母さまの部屋。ひ孫との交流も元気の秘訣です
3. 隣接するリビングから見た1番座と2番座。和室には掘りごたつを造り付けており、大勢の来客でもゆったりくつろげるようになっています
4. 1階のリビングは両世帯の憩いの場です



家族全員の希望と風水をベースに

綿密な打ち合わせと確認作業を徹底——建築士・赤嶺しげたかさん談

知念さん宅は、二世帯の家族全員が納得する「家族みんなに優しい家」を目指しました。それには家づくりは協働作業であるという意識をお互いに持つ事が大切になるため、設計前に「とことん話し合っている家をつくりましょう」との約束を交わしました。

この場合の「優しい家」とは、すべてが癒しの空間ということではなく、家事の作業効率が向上する動線を確保することや、場所に

よっては距離感を保って、居心地のよい癒しの空間を設けることです。プランは家族一人ひとりの話と風水をベースに部屋を配置し、今まで暮らしていた住宅のよい部分と不便だった部分を徹底して聞き取りながら、フィルターを通すようにしてまとめました。

打ち合わせの中で印象的だったのは、お母さまの「ずっとお父さんの後ろ側にいたい」との言葉です。その時に裏座の存在の奥深さに

気付かされ、心を打たれました。そして、要望通りに裏座をお母さまの部屋にしようとしたのですが、よくよく話を伺うと、近所に住む幼なじみの方々が頻繁に訪ねて来るとのこと。それなら、南側の庭に面した一番いい場所の方がより楽しく過ごせると考え、配置をそのように変更しました。

親世帯の設計のポイントとしては、盆正月の際の来客に対応するための機能的な空間を設けたほか、ストックルームに続く勝手口の入り口前に奥さま専用の駐車場を設置して、合理的な家事動線を確保しました。また、高齢のお母さまが日課をこなしやすいことや、お孫さんたちの往来が楽にできることなどが挙げられます。もちろん家族全員の安全性にも配慮しています。子世帯は、息子さんの書

4世代8人で暮らす二世帯住宅



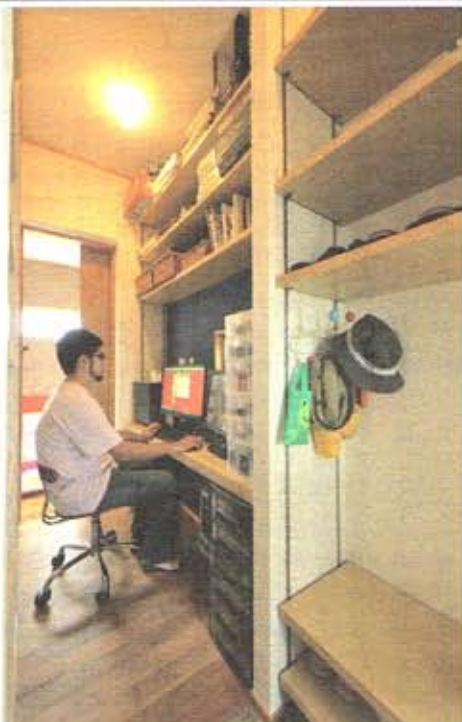
右/子世帯は、このデッキテラスを囲むようにして居室を配置。家族が別の部屋で過ごしていても、その様子はデッキテラスを介して伝わってきます。左/親子世帯をつなげる階段室の前面道路側には花ブロックを設置。光や風を程よく通しながら、外観のアクセントにもなっています。

斎を作ったことや、お嫁さんの家事動線の効率化などをポイントに設計しています。また防犯性と近隣への配慮や、各世帯間で信頼関係が築ける距離感も大切にしました。

旧家の思い出を何らかの形で残したいと思い、活用できる部材を探したところ、家族の安全を支えてきたであろう木製の階段手すりを見つけました。亡きお父さまと家族の手の温もりが感じられるこの部材に家族の新しい歴史を刻み、次の世代にも受け継いでくれることを願って、お孫さんたちの「背くらべ用の柱」へと再生させました。



赤嶺しげたかさん



右/2階子世帯の玄関ホール。右側の赤い引き戸はシューズクロークの入り口となっており、そこから書斎、寝室へと続きます。左/シューズクロークの奥行きを利用して確保した息子さん専用の書斎。寝室への動線はほかにもあるので、独立した空間としても使えます。



目隠ししながらエアコン効率を向上



「1階のキッチンが客間から見えないほうがいいかもね」と、奥さまの一言から生まれた目隠し扉。この扉を閉じれば、キッチンに溢れる生活感が隠せるほか、居間のエアコンの効きが効率的になるというメリットもあります。それぞれの扉が連動しているので開閉は片手でも楽々。普段使わない時は戸袋に収めておけば見た目もスッキリです。

■一級建築士事務所 Simple(しんぷる)
7月1日に事務所を移転しました
うるま市塩屋510-1 105 ☎098-974-2500
<http://simple2525.com>